

田園

一月号

聖フランシスコ カトリック田園調布教会

(No. 703 2022. 1. 1)

カトリック田園調布教会報

☎03(3721)7271

〒145-0071 東京都大田区田園調布3-43-1

新しい年を迎えて

主任司祭

ドミニコ竹内正美神父

信徒の皆様、

明けましておめでとうございます。
新しい年が皆様方にとって恵み豊かな年となりますようお祈り致します。

昨年はコロナウイルス感染拡大によつて不自由な生活環境を強いられた一年でした。

コロナ感染拡大によつて第一回目の公開のミサを原則として中止したのは一昨年の2020年2月7日(木)から3月14日(土)まででした。主日や週日のミサが非公開になり、もどかしさを感じた方もおられたかと思えます。

菊地大司教様は非公開ミサに寄せ

て次のようなコメントを述べています。「もちろんミサがないことで教会共同体が崩壊してしまつたわけではありません。私たちは信仰によつて互いに結ばれているのだという意識を、この危機に直面する中で改めて心に刻んでいただければと思います。祈りのうちに結ばれて、キリストの体を共に作り上げる兄弟姉妹として信仰のうちに連帯しながら、この暗闇の中で、命の源であるキリストの光を輝かせましょう。弟子たちを派遣する主が約束されたように、「主は世の終わりまで、何時も共にいてくださいます」(マタイ28章20節)

この挑戦は、私達に、生活において信仰を意識する機会を与えています。

私達はこの困難な時期を、信仰を見つめ直したり、聖体や聖体祭儀の意味について改めて学んだり、霊的聖体拝領に与かったりと、普段はあまり気に留めていない信仰生活を、見直す機会ともしたいと思います」と。

このような困難な時、潜伏時代のキリシタンが二百数十年の間、司祭不在のため洗礼以外の秘跡に与かれない中、どれほど切実な思いで信仰を生き伝えていったのかを思い巡らしてみてはいかがでしょうか。今、自分の信仰が試される時期として受け止めて参りましょう。

田園調布教会は約2年近く教会活動(要理の勉強会、聖書講座、家庭集会、信徒の各委員会、教会学校、侍者会、聖歌隊、バザー)等が休会になるなど不便を耐えてきました。何回かの非公開ミサは信徒の皆様には大きな打撃を与えてきました。

田園調布教会では日曜日のミサに來られない高齢者や病氣の方々のために、ライブ配信を通してミサの映像を配信して、共にミサに与かり、霊的聖体拝領を通して信仰の喜びに参加するよう計らってきました。

洗礼・堅信・聖体という入信の秘跡のありがたさが身に染みた方、これまでミサの意味を分かちて意識的に参加していたかどうか反省させられた方もおられたことでしょう。

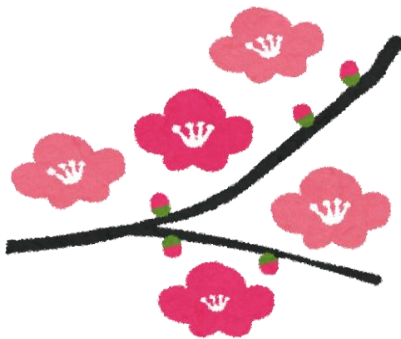
ミサや赦しの秘跡の大切さや司祭のありがたさに気づかされたかもしれません。結局、自分の信仰がどれほどのものかを自分に問いかけるいい機会だと思えます。

コロナ感染の期間が長引けば、信徒の皆さんが徐々に教会離れになければよいのですが、大変危惧していません。そのためにも信徒の皆さんがお互いに声を掛け合い、励まし合いながら典礼に参加し、信仰生活の充実に努め

てほしいと思います。

こういう時こそ、お一人おひとりが教会共同体や家族や隣人への愛が本物であることを証明できれば幸いです。

本年こそコロナ感染終息を願いますが。



コロナ禍での祈り

教会委員長

パウロアンブロジオ高瀬信彦

2020年2月25日に東京教区より2月27日以降の公開ミサの見合わせ、教会施設への立入もできないという自粛をおこなうよう通知されました。当時の感染状況よりは予測されてはいたものの公開ミサ見合わせは私たち信徒にとつてもちろんのこと、特に神父様方々には受け入れるのにも苦しむものでした。2000年続いたミサが公開ミサのみといえどもおこなえないという状況は誰もが理解しがたいものでした。

5月になり東京教区よりは公開ミサ再開にむけた留意事項、体制整備のなどが司祭団、委員宛に通知あり、私たちは準備に取り掛かりました。当時は感染予防に必要な消毒液、体温計などはなかなか

手に入らず再開までに準備できるか全く見通しがつきませんでした。

ミサの受入体制については、委員の方々より様々な意見が出されましたが、実際にどのようなようにするか悩みの日々が続きました。

ある日私は現場確認のため一人で聖堂に入る機会がありました。そこは世の中の感染騒ぎとは裏腹に静かな空間で、私は思わず速やかなミサの再開を祈るばかりでした。

6月10日に教区より、6月21日(日)からの条件付き公開ミサ再開の通知がありました。ミサ受入準備の方は消毒液なども含め幸運にも間にあい、教会委員のみならず各委員会の方々も協力したださり田園調布教会も再開の目途がつきました。

再開当日は信徒の方々がいらっしゃるか不安な朝を迎えましたが、三回のミサを通じ172名の方々がミサに参列され

ました。どなたも自粛期間にはご家庭で祈われていたものの、やはり聖堂でのミサ参加、祈りの場への感謝の嬉しそうなお顔がいまでも忘れません。

再開後、2021年8月中旬より9月末まで公開ミサの見合わせを再度余儀なくされましたが、現在までに300〜400名程度の方々が主日のミサに参列され、平日の朝ミサ及び土曜の夜の主日ミサも再開できる状況となりました。

コロナ禍前は主日の三回のミサには1000人弱程度の方々も参列され、バザーを始め皆さまが楽しみにされていた事柄がありました。その姿にはまだまだほど遠い状況です。これから皆さんと一歩ずつ歩んでいき、祈り、奉仕、福音宣教の日々がおくれるよう願っております。

七五三のお祝いミサ

11月14日午後1時より、大聖堂にて七五三のお祝いミサが行われました。

男子5名・女子6名、計11名のお子様、そしてコロナ感染予防のため昨年と同様にご家族のみ参列されました。お子様達は少し緊張した面持ちでしたが、桑田神父様のお話をしっかりと聞き、最後は笑顔でミサを終えました。お天気にも恵まれ、無事に七五三のお祝いミサを行えたことを神様に感謝いたします。お子様達の健やかなご成長を心よりお祈りいたします。

教会委員会



主が私の光

柳沢洋子

新年あけましておめでとうございます。

お正月ともなれば、今年こそ何々がこう
なりますように、ああなりますように、
とお祈りすることが多いかと思えます。
これまでの新年の祈りは全て聞き届けら
れたでしょうか。

私は、聞き届けていただけなかった願
いもあり、苦しい思いが続いたこともあり
ました。

でも、この年齢になって振り返れば、実
現しなかった願いと言うのは、時間が経
つてから、もっと良い方向と良い時を神
様が準備してくださっていたと気付くこ
とが何度もありました。自身がその良い
方向に向けて十分に努力していたかどう
かは問わないでいただきたいけれど。

皆様は影絵作家の藤城清治をご存知と思
います。

2016年には女子パウロ会から大作で
ある「アッシジの聖フランシスコ」を出
版されました。銀座の教文館書店のキリ
スト教関係のフロアやグズズ販売のエイ
ンカレムが好きで良く立ち寄るのですが、
年末に写真の絵葉書を見つけました。

題名は「きん色の窓」、遠くの山中の家の
窓が夕日の反射できらりと輝いている場
面です。誰もいない荒野にいる小さな旅
人が、その反射の光を見てほっとしてい
るのか、進むべき方向が分かったのか、
と想像されます。



私はこの絵を見て旧約聖書の大好きな一
節を思い出しました。

「ミカ書7章

私は倒れても、また立ち上がる

闇の中に座っていても主が私の光である」
ミカ書は国の指導者や有産階級の人たち
が犯した罪の故にサマリア、エルサレム、
ユダ地方に主が避けることのできない災
いをもたらされると言う預言をした人だ
そうですが、コロナや感心しない指導者
がいる現代でも、また個人的な苦しみの
中にいても、力強く勇気づけてくれる箇
所です。

どうぞ今年も主の光を見失わずに、良い
年になりますように。